

## 自己点検・自己評価表（平成 28 年度）

### 1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神である「私たちの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」を基盤にして「心ある、そして考える医療人を育てる」という教育理念のもと、学生一人ひとりの個性を大切に、対象となる人々に寄り添い相手を慮る（おもんばかり）心を育み、また、常に多角的な視点から思慮深く考え、共創の心をもって医療を実践できる能力を育てる。

目標を達成するために、生命の尊厳と個々の人格の尊重を基盤とした豊かな感性と幅広い教養を身に付けた「人間性の教育」、理論的思考・深い洞察力と判断力により、主体的・創造的に医療を実践できる「専門性の教育」、地域の保健ニーズを理解し、保健医療福祉チームの一員として、組織的に支援できる「社会性の教育」、学問への探求心とその向上・発展に貢献できる「向上性の教育」に注力し教育を実践する。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

#### 1) 職業実践専門課程を申請し、認定を受ける

- ①リハビリテーション学科・東洋医療総合学科の2学科について申請し、認定を受ける

#### 2) 職場環境を整備する

- ①人事評価項目を見直し、改善する
- ②教務部・事務部とのより一層の連携を図る

#### 3) 教育の質的向上を図る

- ①外部アンケートを実施する
- ②外部講師による授業の授業評価実施に向けた具体的取組みを行う
- ③資格取得に向けた支援体制の充実を図る
- ④内部教員の教育力向上を図る

#### 4) 退学率低減に向けた具体的取組みを行う

- ①退学者要因分析を継続して実施する
- ②1年次の学習支援体制の確立に向けた検討を行う
- ③精神的側面に対する支援体制の確立に向けた検討を行う

#### 5) キャリア教育の充実化を図る

- ①就職ガイダンスの充実を図る
- ②早期からのキャリア教育の明確化を図る

### 3. 評価項目の達成、取り組み状況

#### 1. 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念・目的・育成人材像は定められているか。	④	3	2	1
育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	④	3	2	1
理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	③	2	1
理念等、将来構想を教職員に周知しているか	4	③	2	1

#### ①課 題

- ・理念等と教育活動との関連性について、学校 HP 等で明確に示すことができていない。
- ・将来構想と社会的ニーズの適合性の確認、及び教職員への周知が不十分である。

#### ②今後の改善方策

- ・理念等を基にした 3 つのポリシー（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を明確に示し、その達成に向けた教育活動を具体的に示す。
- ・将来構想の教職員への周知方法をより具体的に構築する。

#### ③特記事項

- ・教育会議にて、3 つのポリシー策定に向けての検討を始めた。
- ・理念等の浸透度を図る目的で、教職員アンケートを 3 月上旬に実施した。  
教育理念の理解度は 80%、育成人材像の理解度は 80% が肯定的回答であった。また、前回（2014 年度実施）との比較では教育理念の理解度は同程度（78%⇒80%）であったが、育成人材像の理解度では肯定的回答が 11% 上昇した。（69%⇒80%）
- ・将来構想の理解度は前回より肯定的回答が 8% 上昇したが（43%⇒51%）、全体の半数にしか浸透していない結果となった。

## 2. 学校運営

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念に沿った運営方針を定めているか	4	③	2	1
理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	③	2	1
運営方針、事業計画を教職員に周知しているか	4	③	2	1
設置法人は組織運営を適切に行っているか	④	3	2	1
学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1
人事・給与に関する制度を整備しているか	④	3	2	1
意思決定システムを整備しているか	④	3	2	1
情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4	3	②	1

### ①課 題

- ・ 運営方針、事業計画は新年度会で明示しているものの、教職員への周知徹底が十分とは言えない。
- ・ 情報システムの整備について方向性は明確であるが、具体的実施に向けて取り組めていない。

### ②今後の改善方策

- ・ 運営方針、事業計画についてはより具体的に明示し、教職員への周知徹底を図る。
- ・ 情報システムの整備については、具体的実施に向けての予算立てを行う。

### ③特記事項

- ・ 事務部の主任を中心に、業務効率化に向けて検討し、学内ポータルサイトを構築した。
- ・ 運営方針等の周知度を図る目的で、教職員アンケートを3月上旬に実施した。  
運営方針の理解度は62%、事業計画等の理解度は60%が肯定的回答であった。いずれも6割程度の理解度であるが、前回（2014年度実施）の肯定的回答との比較では運営方針の理解度は22%（40%⇒62%）、事業計画等の理解度は20%（40%⇒60%）の上昇がみられた。

### 3. 教育活動

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	③	2	1
学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④	3	2	1
教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	③	2	1
教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	③	2	1
キャリア教育を実施しているか	④	3	2	1
授業評価を実施しているか	4	③	2	1
成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	④	3	2	1
資格・免許取得の指導体制はあるか	④	3	2	1
資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
教員の資質向上への取組みを行っているか	4	③	2	1
教員の組織体制を整備しているか	4	③	2	1

#### ①課 題

- ・看護学科二年課程及び臨床教育専攻科において、教育課程編成や実施方針を明確に示せていない。
- ・外部講師が行う授業において、学生による授業評価が実施できていない学科がある。
- ・専任教員と外部講師、各授業科目間などとの連携を組織的に実施できていない。
- ・学生による授業評価や教員相互評価を実施しているものの、両者の関連性やその結果に基づいた具体的改善方策などが明確化していない。
- ・教員の資質向上に関して、計画性が乏しいところがある。

## ②今後の改善方策

- ・看護学科二年課程及び臨床教育専攻科における教育課程編成方針を明確に示す。
- ・全学科での教育課程編成委員会実施に向けた取組みを行う。
- ・学生による授業評価や教員相互評価の結果を、教員の資質向上や教育課程編成に活かすための具体的方策を構築し、実施する。
- ・学校として教職員の研修計画立案についての方策を検討する。

## ③特記事項

- ・教育会議にて「カリキュラムポリシー」「ディプロマポリシー」の明確化に向けた取組みを始めた。
- ・リハビリテーション学科及び東洋医療総合学科において3回の教育課程編成委員会を実施した。  
(リハビリテーション学科：2月8日、5月31日、12月1日  
東洋医療総合学科：2月18日、7月1日、12月19日)
- ・平成27年度卒業生並びに就職先へのアンケートを11月に実施した。
- ・外部講師の授業評価について、教育会議にて授業評価項目を見直し、平成29年度より「授業振り返りシート」として実施することとなった。
- ・教員相互評価を17授業において実施した。

#### 4. 学修成果

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
資格・免許の取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
卒業生の社会的評価を把握しているか	④	3	2	1

##### ①課 題

- ・ 卒業生の社会的評価について組織的に把握できていない。

##### ②今後の改善方策

- ・ 就職、資格取得に関する目標と計画に関して学校として把握する体制を整える。
- ・ 卒業生やその就職先等への外部アンケートを実施するなどして、社会的評価の把握に努める。

##### ③特記事項

- ・ 教育会議にて各学科の就職、資格取得に関する目標及び計画についての情報を共有した。
- ・ 平成 27 年度卒業生に対するアンケートを 11 月に実施した。
- ・ 平成 28 年度卒業生の 4 月現在の専門分野就職率は看護学科二年課程 100%、東洋医療総合学科 1 部は 100%、東洋医療総合学科 2 部は 81.8%、リハビリテーション学科は 100%、臨床教育専攻科は 96.3%であった。
- ・ 国家試験の合格率は看護学科二年課程は 100%、リハビリテーション学科は 94.8%、東洋医療総合学科はあん摩マッサージ指圧師は 1 部・2 部共に 100%、はり師は 1 部 96.7%、2 部は 88.5%、きゅう師は 1 部は 96.7%、2 部は 92.3%、看護学科二年課程（通信制）は 78.7%であり、全学科において全国平均を上回る合格率となった。

## 5. 学生支援

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
学生相談に関する体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の健康管理を行う体制を整備しているか	④	3	2	1
地方からの入学生に対する生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
保護者との連携体制を構築しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制を整備しているか	4	③	2	1
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	③	2	1

### ①課題

- ・就職に関する情報集約と活用状況が十分であるとは言えない。
- ・退学率減少に向けて各学科で取り組みを行っているが、その低減は図れていない。
- ・カウンセリングルームを設置しているが相談できる日数や時間が少ない。
- ・学生面談室の環境がプライバシーに配慮した設備となっていない。
- ・全学生を対象とした学校独自の経済的支援体制（奨学金制度）が確立できていない。
- ・課外活動に対する学生の要望があった場合の対応等について不明確である。
- ・学校として同窓会との連携体制が不十分である。

### ②今後の改善方策

- ・教員と事務とが一体となった就職支援の在り方を検討し、構築する。
- ・1年次の退学率低減に向けた具体的取組みを検討し、実施する。

### ③特記事項

- ・教務事務が一体となった就職支援は、情報システム化の実施と合わせて検討している。
- ・カウンセラーと教務部との連携を一層密にして、教員が学生相談でメンタル支援に関わるときのポイントなどアドバイスをもらい、学習支援の参考にすることができた。
- ・教育会議にて平成 27 年度退学者要因分析を行い、各学科の状況を共有した。

### 6. 教育環境

評価項目	4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切			
	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	④	3	2
学外実習の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
海外研修の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1
学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1

### ①課 題

- ・防災や危機管理マニュアルについて、より一層教職員や学生に周知する必要がある。

### ②今後の改善方策

- ・防災以外の危機管理対策についても、訓練を実施するなどして、教職員や学生への周知を図る。

### ③特記事項

- ・4/26 に消火体験、炊き出しを含めた防災訓練を実施した。

## 7. 学生の募集と受け入れ

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	④	3	2	1
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	③	2	1
入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
経費内容に対応し、学納金を算定しているか	④	3	2	1
入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	④	3	2	1

### ①課 題

- ・ 入学者の学力に応じた、学校としてのサポートが不十分である。

### ②今後の改善方策

- ・ 学習支援の在り方を再検討し、具体的に実施する必要がある。

### ③特記事項

- ・ 募集状況の厳しいリハビリテーション学科において、外部企業と連携し、募集対策を実施した。
- ・ リハビリテーション学科及び看護学科二年課程において定員を満たすことが出来なかった。
- ・ 早期入学者に対し、入学パスポートを発送した。今年度は12名が図書室の利用やはりきゅう体験治療（臨床教育専攻科の臨床実習患者）などで、入学前に来校した。

## 8. 財 務

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	③	2	1
学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	④	3	2	1
教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	③	2	1
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	③	2	1
私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1

### ①課 題

- ・各学科における予算等計画については「教育研究備品」の項目では行っているものの、入学前サポートや模擬試験の受験料等の教育内容に関する項目においてはできていない。
- ・各学科や部署における予算計画や予算管理に関して、運用上のルールが明確に記されていない。

### ②今後の改善方策

- ・各学科や部署の予算計画や管理に関する運用上のルールを策定する必要がある。

### ③特記事項（中間評価）

- ・財務状況の一部を学校 HP にて公開した。

## 9. 法令等の遵守

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	④	3	2	1
自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	④	3	2	1
学校関係者評価結果を公表しているか	④	3	2	1
教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	③	2	1

### ①課題

- ・ 情報公開ガイドラインに基づく情報公開が十分であるとは言えない。
- ・ 情報公開に向けた学内でのチェック体制が明確化していない。

### ②今後の改善方策

- ・ 情報公開ガイドラインに基づく情報公開を進めるとともに、学内でのチェック体制を明確にする。

### ③特記事項

- ・ 3回の学校関係者評価委員会を実施した。(5月30日、12月5日、3月13日)
- ・ 財務状況の一部を学校HPにて公開した。

## 10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切			
	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2
学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	③	2	1

### ①課題

- ・学生ボランティアに関する担当窓口が不明確であり、周知徹底されていない。

### ②今後の改善方策

- ・学生ボランティアに関する担当窓口を明確にし、周知徹底を図る。

### ③特記事項（中間評価）

- ・6/5に実施された「おおたユニバーサル駅伝」に協賛した。
- ・2月に「おおた区民大学」に協力した。
- ・文部科学省委託事業「超高齢社会における認知症患者に寄り添う医療・介護連携型の中核的鍼灸専門人材の育成」事業に関する紹介動画を学園HPにて公開した。

## 11. 国際交流

評価項目	4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切			
	国際交流に取り組んでいるか	4	③	2

### ①課題

- ・留学に関する担当窓口が不明確であり、周知徹底されていない。

### ②今後の改善方策

- ・留学に関する担当窓口を明確にし、周知徹底を図る。

### ③特記事項

- ・8月に実施した米国研修にはリハビリテーション学科の学生が13名、中国研修には東洋医療総合学科の学生が21名、臨床教育専攻科の学生が1名参加した。
- ・留学生からの報告を学校HPにて公開している。（天津中医薬大学およびAIMCパークレー）
- ・1月中旬より約8週間に渡り、天津中医薬大学の教員2名が本校を窓口として日本のリハビリテーション研修のため短期留学し、本校教職員との交流を行った。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### 1) 平成 28 年度重点目標に対する取組みと評価結果

###### (1) 職業実践専門課程を申請し、認定を受ける

- ①リハビリテーション学科・東洋医療総合学科の2学科について申請し、認定を受ける
  - ・9月末に申請を行い、2月24日に認定を受けた。

###### (2) 職場環境を整備する

- ①人事評価項目を見直し、改善する
  - ・平成28年度期中の評価結果を基に管理職会議にて検討・改善し、平成29年度期中評価より実施することが決定した。
- ②教務部・事務部とのより一層の連携を図る
  - ・教務室レイアウト等の変更に伴い、教務部と事務部のメンバーによる「教務室レイアウト変更プロジェクト会議」を実施し、大規模な変更を円滑に実施することができた。

###### (3) 教育の質的向上を図る

- ①外部アンケートを実施する
  - ・平成27年度卒業生及び就職先へのアンケートを11月に実施した。
- ②外部講師による授業の授業評価実施に向けた具体的取組みを行う
  - ・教育会議にて検討し、平成29年度より「授業振り返りシート」として実施することとなった。
- ③資格取得に向けた支援体制の充実を図る
  - ・教育会議にて、適宜情報共有を図り、状況に応じて各学科別に対策を行い、全学科において全国平均を上回る国家試験合格率となった。
- ④内部教員の教育力向上を図る
  - ・教員相互評価を17授業で実施した。

###### (4) 退学率低減に向けた具体的取組みを行う

- ①退学者要因分析を継続して実施する
  - ・平成27年度退学者の要因分析結果を教育会議にて情報共有した。
- ②1年次の学習支援体制の確立に向けた検討を行う
  - ・各学科での実施内容を教育会議で情報共有した。
- ③精神的側面に対する支援体制の確立に向けた検討を行う
  - ・教務部とカウンセラーとの連携を密にし、学生支援を実施した。

###### (5) キャリア教育の充実化を図る

- ①就職ガイダンスの充実を図る
  - ・学生事務課による就職ガイダンスを実施した。
  - ・各学科とも低学年次における就職ガイダンスを実施した。  
(看護学科二年課程：1年生対象。6月に実施 リハビリテーション学科：2年生対象。3月に実施 東洋医療総合学科：2・3年生対象。7月に実施)
- ②早期からのキャリア教育の明確化を図る
  - ・次年度のパンフレット作成に合わせ、各学科のキャリア教育について整理した。

## 2) 平成 29 年度に重点的に取り組む目標

### (1) 教育の質的向上を図る

- ① 授業評価結果の運用について検討する
- ② 外部講師との連携を強化する
- ③ 3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）を策定する

### (2) 職場環境を整備する

- ① 「医療人を育成する」教職員としての行動を心がける

### (3) 退学率低減に向けた具体的取組みを行う

- ① プロジェクトチームを発足し、検討・実施する